

令和4年6月定例県議会の概要について

概 要

「一般質問」での教育委員会関係の主な質疑応答

久保田 将誠 議員

教育行政について

(1) 長崎式見高校の跡地

- ・ 長崎式見高校の跡地は有効な活用策が見いだせないまま、廃校から14年が経過し、校舎等の老朽化や防犯上の懸念もあり、地元の方々も今後どうなるのかを心配している。長崎式見高校の跡地について、県は今後どのようにしていくのか、見解をお尋ねしたい。

(教育長答弁)

長崎式見高校の跡地については、これまで県や長崎市をはじめ、地元自治会も交えながら検討してまいりましたが、今のところ、有効な活用策はありません。

このため、今年度は土地の確定測量や不動産鑑定評価を行ったうえで、来年度以降、売却に向けた手続きを進める予定としております。

一方で、当該跡地は素晴らしいロケーションにあることから、コロナ禍における働き方の変化に対応したワーケーション施設や、近年、盛り上がりを見せるアーバンスポーツ施設など、新たな価値を生み出す活用策も考えられますので、関係部局とも連携しながら、このような事業を実施する企業等への情報提供などの働きかけを行ってまいります。

(2) 教員のなり手不足の解消

- ・ 長時間労働が教員のなり手不足の大きな要因であることについての見解と、解消に向けた取組についてお尋ねしたい。

(教育長答弁)

現在、学校の「働き方改革」に取り組むことで、教員の長時間労働は減少傾向にあります。これからは、学校だけではなく、様々な団体との連携や、民間等へのアウトソーシングの中で、教員の分業化を進めていくことが重要であると考えています。

その際、労働時間を減らすだけではなく、その分、子供と向き合う時間や授業野質を高めるための時間を生み出し、教師自身が「働きがい」を実感できるようにしていく必要があります。

さらに、教職のマイナスイメージばかりが報道等で先行する中、子供たちの教育に懸命に取り組む多くの教師の姿にも光をあて、教職の魅力を積極的に発信するなど、様々な視点から教員のなり手不足の解消に繋げる取組を進めてまいりたいと考えております。